**指導者用デジタル教科書（教材）**

**音声テキスト**

本資料は「指導者用デジタル教科書（教材）」に収録されている映像資料の音声をテキストにしたものです。本教材に関連した資料を作成される際の参考として、ご活用ください。なお、音声解説の無い映像資料は、一部割愛しております。

目次

[P. 7　リズムでなかよくなろう 2](#_Toc76738487)

[ステップ1 2](#_Toc76738488)

[ステップ2 2](#_Toc76738489)

[ステップ3 2](#_Toc76738490)

[ステップ4 2](#_Toc76738491)

[ステップ5 2](#_Toc76738492)

[P. 11　歌声1 3](#_Toc76738493)

[P. 23　打楽器のリズム 3](#_Toc76738494)

[ギロ 3](#_Toc76738495)

[マラカス 3](#_Toc76738496)

[クラベス 3](#_Toc76738497)

[P. 26, 27　使われている楽器 4](#_Toc76738498)

[こきりこ 4](#_Toc76738499)

[びんざさら 4](#_Toc76738500)

[たいこ 4](#_Toc76738501)

[笛 4](#_Toc76738502)

[ぼうささら 4](#_Toc76738503)

[くわがね 5](#_Toc76738504)

[つづみ 5](#_Toc76738505)

[P. 29　インタビュー 6](#_Toc76738506)

[P. 35　歌声2 7](#_Toc76738507)

[P. 43　サミングでふくときのポイント 7](#_Toc76738508)

[P. 48　打楽器の音楽 8](#_Toc76738509)

[学習活動1 8](#_Toc76738510)

[学習活動2 8](#_Toc76738511)

[学習活動3 8](#_Toc76738512)

[P. 51　いろいろなマレット（ばち） 9](#_Toc76738513)

[P. 52, 53　いろいろな 9](#_Toc76738514)

[フルート 9](#_Toc76738515)

[オーボエ 9](#_Toc76738516)

[クラリネット 9](#_Toc76738517)

[ファゴット 9](#_Toc76738518)

[P. 59　をひいてみよう 10](#_Toc76738519)

[をはめよう 10](#_Toc76738520)

[の前にすわろう 10](#_Toc76738521)

[をひいてみよう 10](#_Toc76738522)

# P. 7　リズムでなかよくなろう

## ステップ1

「ア」と「イ」のリズムを使って、いろいろな組み合わせ方で、リズム打ちを楽しみましょう。

まずは、「ア」のリズムを打ってみましょう。

次に、「イ」のリズムを打ってみましょう。

打ちのかわりに、こんなリズムに合わせて打ってみても、楽しいですね。

## ステップ2

次は、リズムをつなげて打ってみましょう。

こんなつなげ方もできますね。

## ステップ3

今度は、２組に分かれて、1ずつ、交代しながら打ってみましょう。

## ステップ4

２組に分かれて、リズムを1ずらして、追いかけて打ってみましょう。まず、同じ「ア」のリズムを、ずらして打ってみます。

「ア」と「イ」のリズムを、ずらして打つこともできます。

## ステップ5

２組に分かれて、「ア」と「イ」のリズムを、重ねて打ちましょう。

# P. 11　歌声1

あくびをするようなつもりで、息をすってみましょう。すると、口のおくで、つめたく感じるところがありますね。そこをよく開けて歌ってみましょう。

こんな感じになっていませんか？

このように、口のおくを開けないと、ひびきのある声にはなりませんね。

口のおくをよく開けると、ひびきのある歌声になりますね。

# P. 23　打楽器のリズム

## ギロ

これは、ギロです。このぼうを、このように持ち、こすって音を出します。それでは、えんそうします。

## マラカス

これは、マラカスです。軽くふり下ろして、音を出します。それでは、えんそうします。

## クラベス

これは、クラベスです。かたい２本の木を打ち合わせて、音を出します。手を丸くして、その上に軽くのせ、真ん中あたりを打ちます。それでは、えんそうします。

# P. 26, 27　使われている楽器

## こきりこ

こきりこは、竹でできた楽器です。長さ７５（やく２３cm）の２本の竹を、指で回しながら、打ち合わせて音を出します。

## びんざさら

びんざさらは、１０８枚の小さなうすい板を、ひもでとじた楽器です。楽器の両はしをにぎり、ふり合わせるようにして、音を出します。びんざさらは、こきりこに合わせておどる「ささらり」で、おどり手がえんそうします。

## たいこ

こきりこでは、「」をえんそうします。はが短く、びょうで両面のをとめてある、たいこです。

## 笛

こきりこでは、「」をえんそうします。こきりこでえんそうするは、指あなが６つで、歌と同じようなせんりつを、えんそうします。

## ぼうささら

ぼうささらは、竹と木でできた楽器です。竹を細かくわってねた「ささら竹」を、「ささらこ」という、きざみの入った木のぼうにすり合わせて、音を出します。

## くわがね

くわがねは、田畑をたがやすときに使う「くわ」の金ぞくの部分に、ひもをつけた楽器です。左かたに、くわがねをつるした木のぼうをかつぎ、右手に持ったで、音を出します。

## つづみ

こきりこでは、をえんそうします。は、左手で楽器をかまえ、右手で打ちます。

# P. 29　インタビュー

こんにちは。こきりこうたほぞん会のです。よろしくお願いします。

こきりこは、毎年、春と秋のお祭りに「」に、歌、おどりをします。

女せいの「こきりこ」に、をつけまして踊る「しで竹り」。男せいの「びんざさら」を持っておどる「ささらり」。そして、女せいの「り」と、３あります。

の「こきりこ」は、「り」のの、すのこのとして使われた竹で、できています。昔は、いろりで火を起こしたり、をとったり、食事をしたりしていました。の竹は、いろりのけむりでいぶされて、よくして、ひびくようになります。ですから、とてもいい音がします。

こきりこをこのように持って、回しながら打ちます。

みなさんも、こきりこを打ちながら、歌ってみてください。

お祭りでするために、小さいころから歌やおどりに、親しんでおります。また、このちいきに住む、その他の子どもたちも、小学校の学習発表会で、「こきりこ」をおどっております。

それぞれのちいきには、いろんな楽しいこと、大切なことが、たくさんのこされております。みなさんも「こきりこ」を通して、ちいきのことを見直してほしいと思います。

# P. 35　歌声2

「ゆかいに歩けば」の歌は、スタッカートで歌うところがありますね？ スタッカートを生かして歌うには、わらったときのように、おなかの動きを感じて、軽くはずむようにするといいですよ。こんな感じです。

高い音から下がってくるときも、ひびきのが下がらないようにすると、いいですよ。

# P. 43　サミングでふくときのポイント

リコーダーで、高い音を出すを、えましょう。こうして、後ろの親指のあなに、小さなすき間を開けることを、「サミング」といいます。高い「ミ」、「ファ」、「ソ」の音を出すときに、このサミングをします。サミングをするには、親指を少し曲げるか、親指を下にずらして、小さなすき間を開けましょう。では、教室のみんなもしてみましょう。

（～♪）、はい。

歌を歌うときのうら声のように、（～♪）とひびかせると、きれいな音になりますよ。

（～♪）、はい。

今度は、（～♪）と、えんそうしましょう。（～♪）、はい。

強い息でふかずに、うら声で歌うようにふくと、きれいな音になりますね。

# P. 48　打楽器の音楽

## 学習活動1

これらのカードは、いろいろな音の様子を、図形で表したものです。音のひびきをたしかめながら、カードを使って、打楽器の音楽をつくりましょう。まずは、いろいろな楽器を使って、鳴らし方をしながら、「ア」から「エ」のカードの図形を、音で表しましょう。

「『ア』のリズムを、ウッドブロックでえんそうします。音の高さもしました。」

「『ウ』のリズムを、すずでえんそうします。だんだん強くなる様子をしました。」

## 学習活動2

ここからは、３人の組になって、音楽をつくります。まずは、音のひびきあいをたしかめながら、組み合わせる楽器をびましょう。このグループは、次の3つの楽器をびました。

「わたしたちは、木でできている楽器を組み合わせて、音楽をつくりました。３つの音のひびきは、こんな感じです。」

## 学習活動3

んだ楽器を使って、音楽をつくります。音楽をつくるときのルールは、３つです。始めの部分と終わりの部分は、１枚のカードをんで、3人でいっしょにえんそうすること。真ん中の部分は、カードを自由に組み合わせてつくること。「ア」から「エ」の4のカードを、すべて使うことです。それではこのをえんそうしてみます。

# P. 51　いろいろなマレット（ばち）

やをえんそうするときに使うマレットには、いろいろながあります。マレットをかえたり、打ち方をかえたりすると、音色をかえることができます。それでは、いろいろなマレットで、「茶色の小びん」のパートをえんそうしてみます。まず、毛糸まきのマレットで、打ってみます。

糸まきのマレットで、打ってみます。

ゴムのマレットで、打ってみます。

かたいゴムのマレットで、打ってみます。

# P. 52, 53　いろいろな

## フルート

これは、フルートです。

## オーボエ

これは、オーボエです。

## クラリネット

これは、クラリネットです。

## ファゴット

これは、ファゴットです。

# P. 59　をひいてみよう

## をはめよう

をひくときには、このように、右手の親指、人さし指、中指に、をはめてえんそうします。は、「つま皮」の部分が、自分のの根元までくるように、しっかりと深めに、はめましょう。

## の前にすわろう

角づめでえんそうする場合は、この「」の部分に、右ひざがあたるように、に対して、少しななめにすわりましょう。

## をひいてみよう

角づめの場合は、の角で糸をひきます。このように、手がつぶれてしまうとひきづらいので、手の中に、たまごが入っているようなイメージでかまえます。

は、このように、ひく場所によって、音色がことなります。「」から２〜３cmはなれた、このあたりをひくと、楽器が一番よくひびきます。